

令和8年度

板野中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○家庭学習を通して、主体的態度を育成し、知識・技能の習得の強化に繋げる
○課題に対して生徒自身で収集した情報を整理・分析し、適切にまとめ、表現する力を育成する

校長

高畑 聖

学力向上推進員

校長 高畑聖 教頭 高木康二 教務主任 村上晃一 特別支援
コーディネーター 橋口由佳 研修主任 瀬部浩子
1年主任 千種晶子 2年主任 高田恵美子 3年主任 市川尚将
国語主任 養手明子 数学主任 中野郁菜

【各校の取組状況の把握について】

アンケートの実施、研究授業での報告、授業での成果物

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○短答式の問題について正答率が高く、基本的な用語の理解や、計算力は身につけている生徒が多い。 ●授業の際には理解できるが、長期的に記憶することが難しい生徒が多い。	・基本的な知識・技能の習得に継続して取り組むことができる。 ・授業だけではなく、家庭学習やすき間時間にもくり返し学習に取り組むことができる。	・単元のめあてを設定する。 ・まとめ・ふりかえりを単元のまとめ等で行う。 ・自主学習ノートに毎日取り組ませる。(繰返し学習を推奨する) ・AI型教材「キュビナ」を使って、朝学習や授業のすき間時間、家庭学習においてくり返し学習するよう促すとともに、紙媒体の教材を併用する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○友だちの意見を参考にして、自分の考えをまとめることができる生徒は多い。 ●課題に応じて取り入れた情報を整理・分析したり、複数の考えから新しい考えを創造したりすることに課題がある。	・何が課題なのかを生徒自身で設定することができる。 ・基本的な知識や収集した情報を組み合わせ、課題解決に繋げることができる。また、解決方法を説明することができる。	・情報の収集・分析・活用の場面でタブレットを効果的に活用し、生徒の情報活用能力の育成に繋げる。 ・単元レベルで授業を組み立て、生徒主体で学習を進められる発問を設定する。 ・2週に1回のNIE活動で、自分の考えを表現させる。(新聞切り抜き感想シート)			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○予鈴着席ができていて、授業態度が落ち着いている、教科内容で分からないところがあれば教師に質問に来る。 ●家庭学習時間が確保できていない生徒が多い。	・授業開始2分前から静かに学習準備ができる。 ・家庭学習時間を確保し、主体的に学習に取り組むことができる。	・年5回、「家庭学習強化週間」を実施する。(生徒自身が「生活振り返りシート」に放課後の家庭学習の状況を記録し、どうすれば家庭学習時間を確保できるかを考え、実践する)			